



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 社団法人日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 高田鉄也
 編集責任者 高田鉄也
 金子健史
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ http://www.jamt.or.jp

=文化を創り育てる… それは、あなた自身です=

我々は医療に従事する検査技師ですが、「医療について知っていますか」と問われた場合、自信を持って「はい、知っています」と答えることができるでしょうか。では、医療関係者以外の人はどうでしょうか。自信を持って答えられる人は、更に少ないでしょう。人が生きていくうえで重要な無関係ではいられない「医療」について、あまりにも知らないことが多すぎるのです。いまや、医療は他人まかせではならないのです。国民の一人ひとりが「医療を動かし、国を動かす一員」にならねばならないのです。

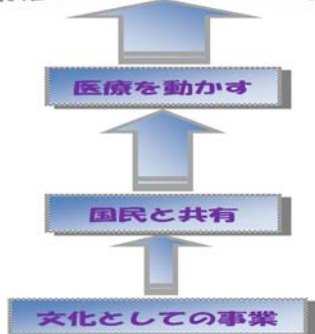
「国を動かす」、「医療を動かす」ことは容易くはありません。しかし、決して不可能なことではないはずで。

様々な医療の場に患者が参加できるシステムを創るなど患者の声が確実に反映される社会づくりが必要です。我々検査技師はその歯車になるには十分な知識と立場をすでに確保しています。検査技師も国民の一人であり、「医療を動かし、社会を動かす一員」になることが、検査技師の存在を世の中に示すこととなります。やがて、それが臨床検査を日本の医療文化として定着させることとなります。その検査文化を不滅のものとして伝承していくことが、今を生きる我々に課せられた使命の一つでもあります。

臨床検査をおし実践することは、臨床検査技師である“あなた”自身でなければなりません。

あなた自身が、医療を通じ、国民と共有し「世の中を動かす“検査技師”」として、更に、「臨床検査を医療文化として伝承」するよう「成熟した検査技師」とならねばならないのです。

検査文化としての伝承



◇ 時は過ぎ行くか…

「人は過去に生きてはならない。未来に生きなければならない。しかし、そのヒントは過去にある…」これは、地球を遠く離れた宇宙空間から青い地球を見た、アポロ 15 号のデヴィット・スコット船長の言葉です。

では、過去はどこへ行くのでしょうか？

人は人生そのものを夢にたとえ、「人生は儚いもの」と嘆きます。

自分が蝶に化身したのか、蝶が自分に化身したのか判らぬままに夢の世界をさまよう「胡蝶の夢」を知っていますか？ また、ご飯が炊き上がる僅かな一時に数十年を経過した自分の姿を見て、やがて目覚めた時、自分の愚かさに気づき、今まで歩いて来た道を勇気を持ち戻って行く「邯鄲の夢」を知っていますか？

この一炊の夢には、時間という永久のテーマが控えています。目覚めた時、夢では未来であった自分の姿はすでに過去のものとなり、どのような方法を用いても知覚の到達できない世界なのです。

このように、現在という一時を除きすべてが過去の世界であり、私たちは過去に生きていくといえます。

現在には、幅のある今<A>と幅のない今があります。この今は、いわゆる<過去>と、いわゆる<未来>の同一軸に並んでおり、幅は各人の都合により選択されます。人は、過ぎ去った昔のことは忘れ、未来志向が重要であるといいますが、過ぎ去った昔の上にたった時間にすぎません。過去が不可逆的なものであることから客観的な過去を作り上げ、過去に遡って原因を追究し、責任を求めているにすぎないのです。

過去・現在・未来とは同一軸上に並ぶ時間的空間であり、過去に生きていくという現実を理解しなければなりません。過去はどこへも行かないのです。いや、行くことは不可能な時間なのです。過去無くして未来には生きられず、未来を語ることも出来ません。過去があるから今がある…過去があるから今の自分があるのです。過去を尊重する気持ちを大事にしなければなりません。

◇ 倫理的思考の必要性は…

哲学や倫理は、人間思想の中でも、人間とは何か、社会との関わりは何か、自然との関わりは何か、人間にとり価値あるものとは何か、そして、人間はどのように生きるべきかなどを考えるものであ



り、医療においても当にその根幹をなすものです。社会主義の崩壊と市場経済のグローバル化は公害と環境問題を引き起こしました。この負の遺産を解決することから始めなければなりません。地球環境は生物の多様性を保護し、人間が健康に生活できる環境と人類が生産し続ける環境を考えねばなりません。また、米国主導型のグローバリゼーションは市場経済を拡大させました。

その結果、一部が利益を得るという不平等の拡大を招き、国民生活を衰退させました。これらは、人間の基本的権利である人間らしく生きる権利さえも脅かす結果となりました。

前号にも記しましたが、20 世紀は激動の世紀、一方では科学技術の世紀と云われ、人間の科学は宇宙の果てからミクロの世界、遺伝子まで解明しました。これらは人の生活は勿論、国のあり方をも変える力を持つ結果となりました。その結果、前世紀に破壊したものを、失ったものを新世紀に取り戻そうとした動きが見られます。それは、本来の人としての人間再考といえます。

人間は、社会的活動により社会制度を創り歴史を創る存在という意識が重要です。そのためには、社会生活における生命倫理をはじめ、政治倫理、環境倫理、企業倫理などの明確化が重要です。

現代倫理の確立は、個人の自由とともに社会的な共同や連帯の精神を産み、人間の自立性と共同性を確立します。しかし、それは私を犠牲にした公や社会への奉仕ではありません。そのためには、個人の尊重を基礎とした共同や連帯の力による、社会や国家、国際関係を築きあげる主体的な人間が必要となります。

◇ 次世代の“あなた”へ…

あなたは、「格差社会」をどう思いますか？日本は本当に格差社会ですか？

あなたは、日常業務において「格差」を感じていますか？

